

OVER the RAINBOW

巻頭言

大阪教育大学 理事
中西 正人

『22世紀へと生きる』 vol. 22

TOPICS

- 日本留学アワーズ
- スタッフ紹介
- 第8回国際センターシンポジウム
- 留学生後援会奨学金贈呈式
- 地域の国際交流団体による交流活動
 - ホームビジットプログラム
 - 門松づくり体験
 - 留学生講演「異文化の暮らしを学習しよう」
 - 柏原市ぶどう狩り
- 秋季日本文化研修(兵庫県)
- 平成29年度後期修了留学生メッセージ
- 留学生コラム
- 国際センターの活動
 - 国際交流プログラム
 - 日タイ学生交流事業
 - 海外留学体験談
 - 留学生後援会入会のお知らせ



『22世紀へと生きる』

理事 中西 正人



私は大阪教育大学の一員になって4年になりますが、それまでの40年間、大阪府庁というローカルガバメントで仕事をし、グローバルとは程遠いローカルな生き方をしてきました。そんなわけで、この巻頭に登場させていただくのは恥ずかしいかぎりです。

大学に来てからも見かける留学生の姿をまぶしく感じていたぐらいですが、何度か出席させていただいた留学生修了式とそのあとの懇親会で、本学での学びを終え、新しい舞台に旅立とうとする留学生の希望に満ちた表情や力強い決意の言葉そして別れを惜しみながら語り合う姿には深く感銘を受けてきました。

今、世界は平和を願う多くの人々の思いとは裏腹に、依然深刻な対立や紛争が続き、子供たちをはじめ多くの尊い人命が失われていますし、ますます厳しさを増していますが、留学生たちがそんな国際社会をたくましく、そしてしなやかに生き抜いてくれることを願っています。

さて、最近「人生100年時代」ということが言われるようになりました。昨年、新語・流行語大賞の候補にもノミネートされましたが、人類が100年生きる時代を迎えたということは、一過性の流行語とは違う人類史的な意味があると思います。

グラットン、スコットという二人のイギリス人が書かれた「100年時代の人生戦略」では、2007年生まれの子供の50%が107歳まで生きるという人口学者の推計が紹介されていますが、現在の学生の世代もかなりの人が21世紀を生き抜き、22世紀の社会を迎えることとなります。

司馬遼太郎さんが「21世紀に生きる君たちへ」を書かれて30年、時代は大きく変化しましたが、これからの世代は100年生きるということを確認に意識し、それを前提に人生設計を考えなければなりません。「教育、仕事、引退」という3ステージの生き方が変化する中で、人生の節目で新しいことを学び、充電する期間が必要になりますし、特に若いうちにエクスポーラーとして世界に飛び出し、様々な体験を通じて学ぶこと、そして世界にたくさんの友人と人のネットワークを作ることが重要です。

そういう意味からも本学で留学生と学生が共に学んだ体験と世界に広がる留学生のネットワークは22世紀へと生きるかけがえのない財産だと思います。交流の絆を永く発展させるとともに、人生100年時代にふさわしいチャレンジを期待しています。

》》 日本留学アワーズ3年連続入賞!

留学生に勧めたい大学・専門学校を選出する「日本留学アワーズ2017」で、本学が西日本地区国公立大学部門に入賞し、8月7日(月)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された授賞式で表彰されました。

同賞は、留学生の環境整備を目的として設立され、全国の日本語学校教職員らが投票し受賞校を決めるものです。6回目となった今回は、全国の日本語学校175校の投票により部門別に53校が選出されました。本学は、「留学生募集に積極的」「募集案内がわかり易い」「日本語学校との連携」「熱意のある教授が多い」「学生の満足度が高い」などの点が評価され、国公立大学部門が設置された2015年から3年連続の入賞となりました。本学は、「留学生にやさしい大学」を目指して全学をあげて留学生受入れに積極的に取り組んでいますが、これからも皆が安心して勉強に集中できるような、魅力的な大学にしていきたいと願っております。



》》 スタッフ紹介

2017年4月より外国語学習支援ルーム(Global Learning Community: GLC)のラーニング・アドバイザーとして、学習相談や皆さんの英語学習支援などのサポートを担当しております高田恵子です。外国語学習支援ルームでは、留学生による英語ランチタイムチャット、外国語学習教材の閲覧・貸出、多読プログラム、各種講座、留学相談、国際交流イベント等を実施しています。「英語を話せるようになりたい!」「留学生とお友達になりたい!」という皆さん、ぜひ一度GLCに来てみませんか。大阪教育大学の学生なら、誰でも利用することができます。The doorway to the world is open to YOU! 皆さんの来室をお待ちしています!



外国語学習支援ルーム 高田 恵子

第8回 大阪教育大学国際センターシンポジウム

「グローバルシティズンシップと多文化教育」



国 際センターは11月22日(水)にシンポジウム「グローバルシティズンシップと多文化教育」を開催しました。このシンポジウムでは、グローバル化が進むなかで、どのような教育が求められているのか、ヨーロッパの試みと日本の実践について2つの講演があり、教職員や学生など140人近くの参加者が集まりました。

向井康比己副学長の開会の辞の後、今年5月に協定を結んだジュネーブ大学心理学・教育学部のAbdeljalil Akkari教授から、ヨーロッパやユネスコで提唱されている「グローバルシティズンシップ教育」についての講演があり、それを実際に行うためにはどのような可能性があるのか提案がありました。その次に、東京学芸大学の南浦涼介准教授から、外国からきた子どもや日本語が母語ではない子どもたちが、どのように学校のなかで受け入れられ、また多様な子どもたちが協働していくなかで、学校がどのように変わっていったのか、具体的な実践例が示されました。

最後に高橋登国際センター長が指定討論者となり、聴衆も参加した議論が行われました。参加者からは「今回のシンポジウムでは概念的な話から具体的な実践例への流れがあって、頭の中で整理しながら聞くことができた」「国際というのが自分とは遠いものではなく身近なものと思える機会になった」「今後このような授業づくりが周りの小・中学校や高校にも必要になっていくと思いました」などの感想が寄せられました。



》》 平成29年度 留学生後援会奨学金授与式



大 阪教育大学留学生後援会による平成29年度奨学金授与式を12月13日(水)に開催し、私費外国人留学生に奨学金を授与しました。

留学生後援会は、留学生への経済的支援、地域との国際交流の促進を目的として、地域の支援団体及び本学教職員等により構成された組織で、平成15年度から毎年、留学生に対し奨学金を授与しています。今年度は、寄付団体名を冠した奨学金5名、留学生後援会奨学金7名、大阪柏原ロータリークラブ教育支援金3名の計15名に奨学金を授与しました。

留学生代表として挨拶した教育学部1年生 成夢雪さん(中国)は、「私は人権問題や外国人児童生徒教育に関する授業やゼミにも参加し、充実した環境で勉強できることに感謝しています。ただ、家族からの経済的な支援は無く、アルバイトで思うように大学の活動に参加できないこともあったので、奨学金をいただけることはとてもうれしいです。奨学金の重みを理解し、支援頂いた皆様のご期待に沿えるよう精一杯頑張っていきます」とお礼の言葉を述べました。

また、奨学金授与団体の1つである株式会社福和楽は、本学教養学科自然研究専攻の卒業生である陳鋒さんが創業し、本学の卒業生が複数名就職しています。先輩からの支援は、在校生にとって心強く、大きな励みとなっています。

留学生後援会では、今後も制度の拡充をめざし支援の輪を広げていきます。



地域の国際交流団体による交流活動

ホームビジットプログラム

グローバル香芝

ブ・ティ・タン・キム / ベトナム / 日本語・日本文化研修留学生

11月18日(土)、私たち留学生はホームビジットプログラムに参加しました。それは忘れられないほど素敵な思い出でした。みんな長い間楽しみにしていたイベントです。みんなで電車に乗って、近鉄下田駅へ向かいました。電車の中でホストファミリーのことについていろいろな想像が止まりませんでした。グローバル香芝の方々が下田駅に迎えに来てくれました。それぞれのホストファミリーが私たちの名前を呼ぶ瞬間、私は本当にドキドキしてしょうがなかったです。

私のホストファミリーの方の家は可愛くて綺麗でアニメに出てくるような家でした。あたたかい感じがしました。「母さん、父さんと呼んでね」と言われて、本当に感動しました。私たちはたくさん話をしたり、お互いに文化を紹介したり、悩みを共有したりして、少しずつ打ち解けることができました。おいしいカレーライス、果物、ケーキもご馳走になりました。さらに、帰る時、プレゼントまでいただいて、駅まで送ってくださいました。「母さん」と「父さん」はとても優しく、親切でした。私はとても幸せでした。

日本人の住まいも体験できて、そのうえもう一つの家族もできました。私は日本人のおもてなしを感じました。「一期一会」の言葉のように、このようなチャンスに恵まれて、ありがたいです。本当に感謝しています。ホームビジットプログラムによって、これからの留学生活はより楽しくなると思い、わくわくしています。



異文化の暮らしを学習しよう

柏原市人権推進課

11月15日(水)、柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座「異文化の暮らしを学習しよう」において、本学の留学生ナジモワ・クリスティーナさんが講師として招かれ、出身国のロシアについて紹介しました。クリスティーナさんは、ウラジオストックの中学・高校で日本語を教えている、現職の教員です。

クリスティーナさんは、ロシアの地理や地域、民族など基本的なことについて説明したあと、有名な観光地、ロシア正教に関係のある伝統行事や人々の生活習慣についてスライドを用いて解説しました。最後に、ロシアの伝統的な踊りもビデオで紹介し、希望者をつのってステップダンスを一緒に楽しみました。

質疑応答の時間には、「一般の人々は日本に対してどのような印象を持っていますか」「働く女性はどのような仕事をしていますか」「経済状態はどうか」

「日本とロシアで物価の違いはありますか」など、数多くの質問が出て、クリスティーナさんは丁寧に一つ一つ答えていました。そして「今まで知らなかったことがたくさん分かって勉強になった」「物価、食べ物、生活など日本との違いが理解できた」「ダンスの練習も変化があって楽しかった」などの声が寄せられ、大変好評でした。



門松づくり体験

シニア自然大学校

12月13日(水)、シニア自然大学校の皆様主催により、今年度も恒例の「門松づくり」体験を開催していただきました。この冬一番の寒波の中、材料の準備など、本当にありがとうございました。本格的な門松を作るようなことは少なくなり、留学生にとっては貴重な体験です。

参加した留学生のために立派な孟宗竹や南天、そしてメインとなる松などの材料が用意されました。赤い南天以外にも、白い南天も用意していただき、紅白の南天で、正月らしさを倍増させました。参加者はシニア自然大学校の皆様によさしく手ほどきいただきながら、立派な門松を完成させました。また、飾りとして折り紙も習い、日本の文化に触れることのできた一日でした。この日参加した留学生は32名、飛び入りで2名追加になり、シニア自然大学校の皆様は63名も見られるなど、門松づくりは七夕の笹飾りとあわせて留学生に大人気の体験プログラムです。

最後に、自作の門松を手記に記念撮影をしました。参加者は束の間のひとときを地域の皆様と交流し、自然に触れ合う素晴らしい機会を満喫していました。シニア自然大学校の皆様、ありがとうございました。



ふるさと柏原ぶどう狩りツアー

柏原市

8月26日(土)柏原市主催「ふるさと柏原ぶどう狩りツアー」に今年も本学留学生をご招待いただきました。このイベントは、柏原市の特産品であるぶどうがお腹いっぱい食べられるだけでなく、ぶどう皮飛ばしゲームなど様々な楽しい催しに参加したり、地域の方々と触れ合うことができることから本学留学生も毎年楽しみにしています。参加した学生からは以下のような感想が寄せられました。

「初めて参加させてもらったぶどう狩りイベント、本当に楽しかったです。普段あまり知らない留学生の先輩ともたくさん話せました。皮飛ばしゲームは遊びながら景品ももらえて嬉しいと思いました。まわりの留学生の友達にも知らせて、来年も絶対参加したいです！」(中国・学部留学生)

ご招待いただいた柏原市関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



秋季日本文化研修

兵庫方面

秋季日本文化研修を、12月9日(土)に実施しました。本研修は、本学留学生が日本の伝統文化に触れ、より深く理解する機会を提供するとともに、日本人学生と留学生の交流を促進することを目的として、毎年恒例行事となっています。今年は留学生・日本人学生79名と引率教職員4名で、兵庫県を訪れました。

朝に大学をバスで出発し、まずは神戸市にある「舞子海上プロムナード」に向かいました。この施設は世界有数のつり橋である明石海峡大橋に併設された回遊式遊歩道で、海面から高さ約47メートルに位置し、迫力満点の眺めを楽しむことができます。また、明石海峡大橋の歴史や高い科学技術に関する資料も多数あり、プロムナードの建物外に設置されていた実物大のケーブルの部分展示ではその大きさに皆驚いていました。

次に、明石市にあるレストランへ移動し、明石焼き作りを体験しました。ずらっと並んだ専用の焼き台で学生が黙々と明石焼き作りに没頭するさまは壮観な眺めでした。一所懸命自らの手で焼き上げた明石焼きをみんなで頬張りました。

明石焼きでお腹を満たした後は、国宝・姫路城に向かいました。白鷺城ともいわれる美しい姫路城に見入る学生もいれば、姫路城内のみプレイできる「姫路城大発見」というスマートフォンアプリをプレイしながら城内をまわる学生も多数いました。このアプリはスマートフォンの位置情報サービス機能を使い、姫路城内に多数設置された専用のマークをスマートフォンで読み取ることでスマートフォン上で動画が再生されたり、カメラ機能をとおして江戸時代の街並みを見ることができたりする体感型アプリです。国際センター・長谷川教授による研修の事前講義で紹介され、たくさんの学生たちがいつもとは一味違った方法でお城探訪を楽しみました。

ぎりぎりまで見学を楽しんだ学生たちは、名残を惜しみながらも大阪への帰路につきました。友人たちとともに新旧の日本文化を体験でき、学生たちにとっては充実した一日になったのではないかと思います。





	氏名 Nazhimova Kristina
	出身 ロシア人

人生に最高の学生生活、ベスト友達、貴重な思い出、経験、知識など、OKUに心をこめて「ありがとう」を伝えてやまない!

	氏名 刘オ
	出身 韓国

あ、いえない..
1) ちうかくかもうおわめんか
が、えりたくないよせんせん!
とまってくれないかじかえま
うそむもいいから..
안녕! 사랑해요!

	氏名 蔡康亮
	出身 中国

本当に楽しい一年。先生と一緒に幸せ。中国の寧波へいらして下さい。ご馳走するよ〜!

	氏名 カレン アルカンタラ
	出身 フィリピン人

一年を通して、OKUでの生活は本当に楽しかったです!
たくさんのごちそうを学びました!
OKU, すべてありがとうございます♡
ごさいます! 사랑해요!

	氏名 麻木
	出身 メキシコ

OKUはすばらしい!!
日本語の授業も
English Worldも
とっても面白くて楽しかった!
lm/x/lm

	氏名 MARIA
	出身 ルーマニア人

We arrived here in time for 木葉 and as I'm watching the fall leaves, I keep thinking what an amazing time we had here. I am grateful for the chance to be here and thankful to everyone at OKU for making this year the best year ever

	氏名 ヤミカニ
	出身 マラウイ人

My stay at OKU was so great. I learnt alot about Japan from my interaction with students at OKU. 日本語 Classes were so great. Thanks to all teachers and students I had a lot of fun at GLC clubs OKU was such a great experience in my life!

	氏名 イウンジョン
	出身 韓国

幸せの2017年

	氏名 パクビンハ(彬)
	出身 韓国

最高の1年でした。
みんな、ありがとう。
これからも頑張ろうぜ!

	氏名 オホソフ
	出身 韓国

一年間メッチャおもしろかったんです!
Bonjour! bupakmat! ありがとうございます!
Thank you! 谢谢!
Pikachuは最高の1年を過ごしたよ!
ありがとう!
사랑해요!

	氏名 キムヒョン
	出身 韓国

大阪教育大学で勉強した1年間は、絶対に忘れない思い出だよ。
OKU

	氏名 ケオン・ハオナム
	出身 ベトナム

「おおきに」だけでは伝えきれへんけど、OKUの皆さんに「めっちゃありがとう!」
これからもよろしく!♡

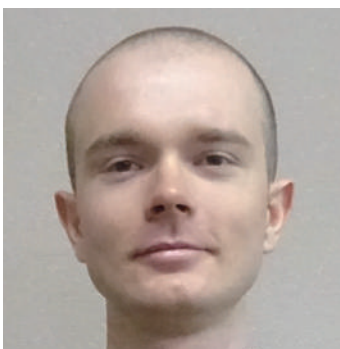
	氏名 ダスタン
	出身 キルギス共和国

大阪教育大学で1年間の友達関係を大事にして、将来も会うに元気で頑張ろう!!
P.S. 私は絶対皆の国へ行くキルギスにも必ず来てくれたさ! 사랑해요!

	氏名 Akmatbekov Chyngyz
	出身 キルギス

この1年間に日本で勉強して、旅行して、友達が出来て、色々な体験をした、良い思い出を残した!
OKU ありがとう
ごさいます!
사랑해요!

ありがとう!大教大!! ~代表あいさつ~ 学部・院を卒業する留学生より



2015年入学
(2013年度国費日本語・日本文化研修留学生)
教育学研究科英語教育専攻
指導教員：橋本 健一 准教授

Glowacki Jakub (グオバツキ ヤクブ) ポーランド

大阪教育大学に初めて来たのもう4年前です。この大学に入る私の最初の目標は大阪の文化に触れることでした。

部活、ゼミや四年間の間にできたたくさんの友達のおかげでその目標を達成することができました。たくさんの難しい授業を受けたり、発表したり、グループワークしたり、日本語の学校でも英語を教えたりして、一番苦手だと思っていた「人の前で話すこと」が得意な分野の一つになりました。

大教大でたくさんいい思い出を作ることができました。



2014年入学
教養学科自然研究専攻
指導教員：片桐 昌直 教授

何 雨徽 (カ ウキ) 中国

日本へ留学きたことは、私の人生を大きく変えたと思います。そして私は、大阪教育大学の学生で良かった。

私が、留学生活で一番好きなのは、毎年の文化研修。日本の文化と触れ合い、新しい仲間と出会う、毎回毎回楽しくてたまらない。京都の西陣織、建仁寺の坐禅体験、小豆島の美しい景色、伝統の醤油作り、おいしい醤油プリン、琵琶湖の博物館などなど。毎年恒例の七夕とお正月の文化体験も日本の伝統を学びつつ、みんなと仲良くなっていきます。伝統と現代、人文と科学の出会いの日本の日常、本当に面白くて、たまらなかった。

四年間、大学の季節の景色も非常にきれいだった。春の桜、夏の森、秋の紅葉、冬の青空、毎日、目の中に絵を書かれていた。そして、大学生活も想像以上に充実していました。サークル、勉強、学園祭などすべての体験は間違いのない一生の思い出。

大学卒業後、ここからは私の新しい起点。大学四年間で学んだことは「過去を後悔せず、未来を恐れず、進もう。」



2014年入学
教養学科人間科学専攻
人間行動学コース
指導教員：下村 陽一 教授

陳 紹龍 (チン ショウリュウ) 中国

バラ色の大学生活の楽しみ方は人によって、きっとそれぞれです。4年間の大学生活を振り返って、大教に留学して良かったと自信をもって言える理由は、まず、大教には講義を楽しませることができる先生がたくさんいらっしゃるからです。

様々な授業を受けることで、新たな知見を得て、また新しい習慣を身につけることができました。これは単純に講義で先生から知識を教えてもらうことだけではなく、多様な学説、意見を知ることの喜びを知ったと言うべきでしょう。

例えば山登りが好きな私は、只々山の頂点を目指すのではなく、この地の歴史、この山にある植物や昆虫のことが気になり、授業で知った効率的な情報収集の仕方、これらのことを調べ、違う方向から人の倍も山を満喫することができました。この喜びは例え教壇に立つことに縁がなくても、他の人に発信していきたいと思います。

次は、留学生にとって居場所である国際センターは本当にありがたいです。他の留学生との待ち合わせ場所の第一候補はまず国際センターの交流室だったことから、空間的な居場所という意味を持つことを想像するのは難しくないでしょう。さらに、生活上の些細なことから学業、進路まで相談に乗ってもらって、冗談に聞こえるかもしれませんが、ある国際センターの先生のことを「天使」と呼ぶこともあるほど、私たち留学生を支えている大きな存在です。ここでははっきり感謝の気持ちを申し上げたいです。

国際センターの活動

国際センターでは、年間を通して様々な交流プログラムを実施しています。ここではその一部をご紹介します。

国際交流プログラム

10月25日(水)の国際交流プログラムでは、キルギスからの留学生3人がキルギス共和国を「アジアのスイス」と題して発表しました。

まず、国の基本的な情報(位置、面積、人口など)を紹介し、次に「世界で一番物価が安い国の一つ」として、キルギスと日本の商品の値段や給料などを比較して示しました。そして伝統的な料理と有名な場所を発表し、最後に簡単なキルギス語での挨拶や自己紹介などを教えて、参加者が実際にキルギス語で会話をしてみました。発表後は交流会を行い、「ボルソック(キルギスの揚げパン)」を味わいながら、「カルパック(キルギスの伝統的な帽子)」を被って全員で写真撮影をしました。

以下は、発表者3名の感想です。

「そんなに多くの学生が来ると思わなかったのですが、皆さん、来てくれてありがとうございました。キルギス共和国について理解が深まることを希望しています。(ダスタン)」

「日本人と留学生は僕の国について何も知らなかったと思いますが、発表後少し印象に残ったと思います。キルギスについて発表する機会を与えてくださった先生方とGLCの皆さんに感謝します。僕も日本語で自国を発表して、良い経験ももらいました。(チンギス)」

「私は日本人学生や留学生などにキルギスの挨拶を教えてとても嬉しかったです。発表のおかげで自分達もキルギスについてもっと詳しく知ることが出来ました。懐かしいキルギスの伝統的な揚げパンも作って食べられて、良い経験になったと思います。(サイカル)」



平成29年度青少年教育施設を活用した国際交流事業

日タイ大学生招聘交流事業—学校安全と防災教育—

国際センターでは、青少年教育施設を活用した国際交流事業「日タイ大学生招聘交流事業」を実施しました。本事業は東京学芸大学と合同で実施するプログラムで、タイ(コンケン大学)から留学生を受け入れる国内事業と、国内事業に参加した日本人学生をタイへ派遣する派遣事業の二本立てとなっています。5年目の実施となる今回は学校安全と防災教育をテーマに、タイ人学生15名、日本側から14名(うち東京学芸大学:10名、大阪教育大学4名)の学生が参加しました。

国内事業では、大阪府内の小中学校や本学の学校危機メンタルサポートセンター及び附属池田小学校訪問などを通じて日本の安全教育について学びました。また、滞在した青少年教育施設のある兵庫県・淡路島では、阪神淡路大震災の教訓を活かした防災教育への取り組みについても学びました。タイへの派遣事業では、コンケン大学、チュロンコン大学でタイの教育とその課題、防災についての講義を受け、両大学の附属学校や地域の学校を訪問し、実際の教育現場を観察しました。参加した学生からは「タイと日本の教育の違い、両国それぞれの特色を学ぶことができ、とても有意義な研修だった。」などの感想が寄せられました。



留学体験談

「A Whole New World」

3年前の夏、アメリカ語学研修に参加した私は、英語が思うように話せない悔しさを抱えて、日本に帰国しました。同時に、今の自分を変えるには、もう一度アメリカへ行くしかない、と心に決め、夢がなってアメリカのウェスタンカロライナ大学(WCU)へ留学しました。

私を待っていたのは、素晴らしい人たちとの出会いと、新鮮な毎日。現地の教員志望の学生とともに授業を受け、地元の小中学校へ観察実習に行ったり、日本語を勉強している学生のチューターも行いました。また、学校だけでなく、日本文化の紹介をしに地方へ行ったり、アメリカ国内様々な場所へ旅行もしました。

常に心掛けていたことは、なんでも挑戦すること、失敗を恐れないということ。10か月間寝る間も惜しんで、この信念のもとに生活しました。

一度はアメリカで苦い経験をした私ですが、今では、英語が大好きだと心から思います。この留学で英語を使って、異なる国の様々な価値観を持つ人と話し、たくさん友達ができただけだと思います。

アメリカで出会った人たちは、今でもつながっています。いい出会いにあふれ、素晴らしいことがずっと詰まった10か月間でした。3年前、もう一度アメリカへ行く、と決心して本当に良かったと思います。



タマキ モモ
玉置 萌
教員養成課程
英語教育専攻4回生



会員募集中 留学生後援会入会のご案内

留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。ご賛同くださる皆さまは、下記によりぜひご加入下さい。

一般会員 学内職員

- 一口1,000円/月、または一括・給与から天引き

特別会員 学外支援者

- 振込…任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい
ゆうちょ銀行はるる
記号:14120 番号:96618321
名義:大阪教育大学留学生後援会
(オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ)
- 現金納入
三菱東京UFJ銀行 藤井寺支店
普通預金 口座番号:5210211
名義:大阪教育大学留学生後援会
(オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ)

会費・納入方法

